

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立松梅中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成27年4月21日(火)

### ■ 調査の対象学年

中学校3年生

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

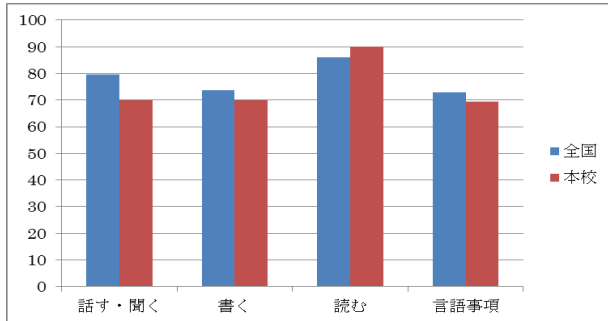
## ■調査結果及び考察

### 1 国語

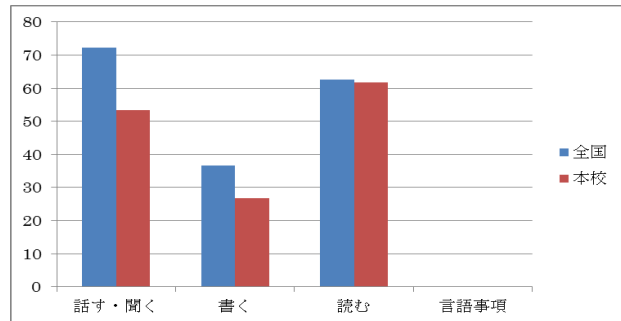
#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較

調査A（主として知識）



調査B（主として活用）



各領域での平均を全国と比較すると「読むこと」の領域で全国平均を上回っているが、他の領域は全国平均に到達できていない。しかし、無回答率は0%で、全ての問題に対してあきらめることなく取り組んでいる。

#### (2) 成果と課題

##### 話すこと・聞くこと

・ほとんどの問題で全国平均を下回っている。聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話すことや必要に応じて質問して聞くことに課題が感じられる。相手や目的、状況に応じて対応する力を育成するために、ペアやグループでの話し合い活動を授業の中で積極的に行う必要がある。

##### 書くこと

・調査Aでは、伝えたい相手に効果的に伝わるように書くこと、調査Bでは、資料の提示の工夫を工夫し、その理由を具体的に書くことに課題がある。いろいろな課題について書く活動を意図的に取り入れたり、書いたものを互いに読みあい、検討したりする指導の工夫が必要である。

##### 読むこと

・調査Aでは、登場人物の言動の意味をとらえ、内容を理解する問題の正答率が100%であった。調査Bでは、目的に応じた文章を要約する問題の正答率が90%であった。多様な情報に触れながら発想を得る力、幅広い読書によって主体的に考え、視野を広げる力を育成することが大切である。

##### 言語事項

・漢字の読み書きや語句の意味の理解は100%の正答率の問題もあったが、単語の類別などの文法の問題は全国平均を大きく下回った。基礎的な知識について、定着が不十分な傾向がみられるので、授業中や家庭学習での反復練習によって、向上を図りたい。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 授業の中で言語活動を充実させ、自分の思いや考えを豊かに表現する力を培います。
- 漢字テストや小テストを継続して行い、言語事項について基礎的な知識の定着を図ります。
- 授業をはじめ、いろいろな行事などでも、発表したり意見交換したりする場面を多く設定し、コミュニケーション能力の育成を目指します。

##### 【ご家庭では】

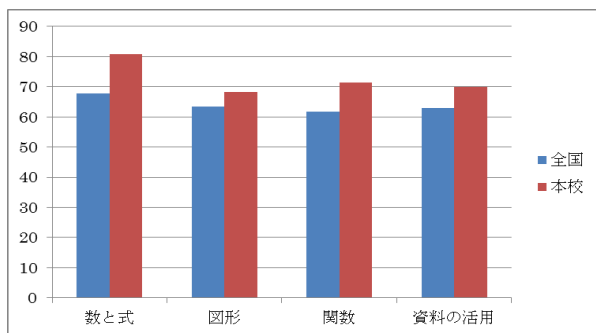
- 中学生になると、読書をする時間がなかなか取れないといいます。「どんな本を読んでいるの」「おもしろそうね」等の声かけや、同じ本を読んでもみるなど家族ぐるみで読書に親しんでください。
- 漢字の書き取りの宿題は毎日出していますので、時々目を通してください。正しく丁寧に書けているときは「しっかり書けているね」と励ましの言葉かけをお願いします。

## 2 数学

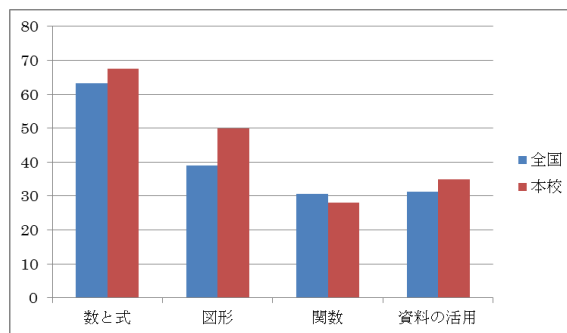
### (1) 結果

#### 全国正答率との比較

調査A（主として知識）



調査B（主として活用）



無答回答があったのが、資料と整理の中央値、度数などを問う内容である。また、問題形式で比較すると、選択肢の問題では、いずれも全国平均を上回っているものの記述式では2ポイント下回った。以上のことから、基礎的な学力は身につけてきていると思われるが、表現力・思考力に乏しい傾向が見られる。

### (2) 成果と課題

#### 数と式

・計算問題は、正答率が高いが、立式をして、証明する問題では結論を明らかにしないまま終わる生徒も多く、証明においては、最終的な着地点を明確に示し、指導していく必要がある。

#### 図形

・ポップアップカードの問題で、正方形を条件にした問題では無答もなく、50%が正答しているのに対し、平行四辺形を条件にした場合は、無答60%、正答0%という結果であった。長方形など分かりやすい条件のときは無答も少ないように思うが、平行四辺形の定義を理解し、利用できていない。特に、空間図形では、実物を取り入れたりして、体験を多く取り入れる必要がある。

#### 関数

・一般的な事象に関しての比例・反比例の数量関係を見出すことができていない。B問題の中には、正答0%のものもあった。表や式を予め、用意されていても、実際問題として、説明することができないことが考えられる。特に、日常的な事象における3つの数量関係を表した式を取り上げ、3つのうち1つを定数とみて、残りの2つの数量が反比例の関係にあることをとらえる場面などを設定していく必要がある。

#### 資料の活用

・2回目の調査が1回目よりも必ずしも良くなかった理由を挙げることができていない。全体的にも記述式の正答率が良くない。自校で同様の調査し、グラフを利用して解析する体験をさせて、情報分析力を身につける必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 授業では、「一人学び」「学び合い」の時間を設定し、基礎的・基本的な内容の理解を深めます。
- 生徒に昼休みや放課後に補充学習を行い、個々の生徒のつまづきに対応します。
- 授業ごとに宿題を出し、基礎力の定着を図ります。

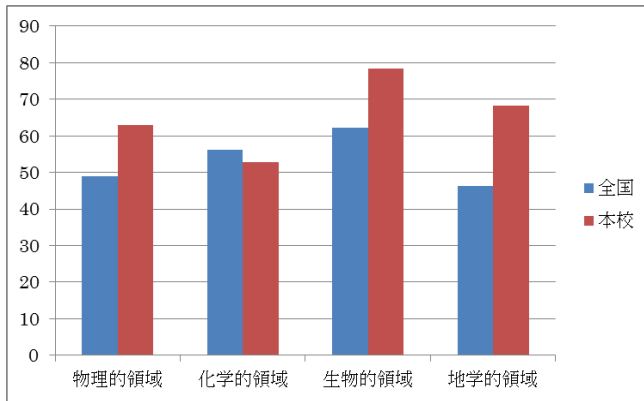
#### 【ご家庭では】

- 毎日宿題を出していますので、宿題の取り組みについて意欲がでるような声かけをお願いします。

### 3 理科

#### (1) 結果

全国正答率との比較



平均正答率で見ると、本校では領域全体では全国平均を 11.0 ポイント上まわった。(県平均よりは 14.4 上まわっている) 各領域別で平均を全国と比較すると、「物理」14.0「生物」16.1「地学」21.9 と 3つの領域で全国平均の値を上回っているが、「化学」の領域については県平均よりは上まわったが、全国平均との比較では若干下回った。(-3.3) また、主として「知識」に関する問題と「活用」に関する問題に分けた場合、本校の正答率は 78.7%と 58.3%という結果だった。

これは、全国平均をそれぞれ 14.8 ポイントと 9.5 ポイント上回っている。無回答率はほぼ 0%に近く、全ての問題に対してあきらめることなく取り組んでいることがわかる。

#### (2) 成果と課題

##### 科学的な思考・表現

・全国平均を 9.5 ポイント上回っているが、考察や結果について文章で表現させる問題では、無解答の項目が若干あった。生徒によっては観察・実験後に個別に指導する必要がある。

##### 観察・実験の技能

・全国平均を 18.2 ポイントと大きく上回った。観察・実験のほとんどを個別に指導できる環境があるおかげで、観察・実験の基本的な操作や手順が身につけやすいと感じている。

##### 自然事象についての知識・理解

・全国平均を 13.4 ポイント上回っている。基礎的な知識については概ね理解しているが、考察を伴った理解は不十分な生徒も多い。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 「活用する力」をつけるような工夫した授業を行います。
- 観点別テストなどの小テストの回数を増やし、基礎的な知識の定着を図ります。
- 発表したり意見交換したりする場面を多く設定し、コミュニケーション能力の育成を目指します。

##### 【ご家庭では】

- できるだけ「科学雑誌」の読書や自然科学を取り上げたテレビ番組を視聴してください。
- 夏休みの自由研究はぜひ時間をかけて取り組ませてください。取り組むなかで、「科学」の面白さや不思議さを感じとれる人に成長していただければと思います。
- 定期テストや実力テストに対しては、家庭学習の時間を大切にしてほしいと思います。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果

##### (2)

##### 《生活習慣について》

調査の項目	本校%	全国平均%
毎日、同じくらいの時刻に起きている	90.0%	92.1%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	80.0%	75.2%
学校の規則を守っている	100%	94.4%
将来の夢や目標を持っている	90.0%	71.7%
人の役に立つ人間になりたい	90.0%	93.7%
人の気持ちが分かる人になりたい	90.0%	94.9%
自分には、良いところがあると思う	50.0%	68.1%
平日にゲームを1時間以上する	70.0%	57.8%

起床時刻や就寝時刻、学校の規則遵守などの結果から、ほぼ基本的な生活習慣は身に付いている。また、遅刻する生徒も無く、学校行事など積極的に取り組み、学校生活を楽しんでいる。

進路に対する意識として、「人の役に立ちたい」「人の気持ちになりたい」などの将来の人物像や将来の夢や目標を持っている生徒は9割いる。しかし、自己肯定感が低く、全国平均と比べると著しく低い。自分の良さに気づいていない生徒が多い。

テレビゲームについては、7割の生徒が毎日1時間しており、4時間以上している生徒もいる。家庭での過ごし方を見直す必要がある。

##### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均%
平日2時間以上勉強している	20.0%	35.7%
平日1～2時間勉強している	30.0%	33.3%
平日0～1時間勉強している	50.0%	30.9%
休日0～1時間勉強している	20.0%	31.2%
家で予習をしている	0%	35.3%
自分で計画を立てて勉強している	30.0%	48.8%

平日に2時間以上家庭で学習している生徒は全国平均と比べると著しく低く、1～2時間している生徒も低い。休日はいづらか学習時間が増えるが、平日の学習時間が少ない。

学習内容については、家庭で予習をしていると回答した生徒はいなかった。また、自分で計画を立てて勉強している生徒が全国平均より低いことから、主体的な学習習慣が身に付いておらず、宿題のみの学習となり、家庭でどんな学習をしてよいのかを理解していないことが分かる。

## (2) 改善に向けての取り組み

### 【学校では】

- 毎日、1時間程度の宿題を出し、それ以外は自主的な学習をするように促します。宿題については帰りの会で全員に確認させ、翌朝に家庭学習チェック表を提出させることで定着を図ります。
- 家庭学習のやり方や進め方を、各教科、学活等で指導します。
- キャリア学習に重点を置き、自分に適した職業、学習と職業との関連について学習しています。子ども達が将来の目標に向かって主体的な学習ができるように努めています。

### 【ご家庭では】

- 基本的な生活習慣はできていますが、家庭学習習慣が身に付いていません。学習する時間を決めて規則正しい家庭学習ができるようにご指導ください。また、テレビゲームやインターネット利用については、家庭で約束を決め、長時間にならないようにご指導ください。
- 自分から取り組もうとする主体的な学習を目指しましょう。そのためにも将来の夢や希望を持つことが大切です。中学校卒業後の見通しや職業についてお子さんと対話も持つと意識が高まると思います。